

東南海、南海地震に備えて

住吉東自主防災会 会長 濱 泰臣 (泰心商事)

地震に備える①

住宅の耐震化

昭和56年5月以前の木造住宅

耐震診断を受けよう!

大規模な地震が発生した場合、老朽化した木造住宅は倒壊する可能性が高く、阪神・淡路大震災における被害状況を見ると、昭和56年5月以前の旧耐震基準で建てられた木造住宅に倒壊や大破が多く見られました。地震被害を少なくするための第一歩は、住宅の耐震診断を行い住宅の耐震性を知ることです。耐震診断とは、建物の耐震性について調査し判定することをいいます。

徳島市では、昭和56年5月以前の旧耐震基準で建てられた2階建て以下の木造住宅(木質プレハブ工法や2×4工法は除きます)に対して自己負担金3,000円で耐震診断を実施しています(平成20年度まで実施予定)。詳しくは、徳島市役所建築課にお問い合わせください。

耐震改修をしよう!

耐震診断を受けて耐震性が不足している場合は、耐震改修が必要です。徳島市の行う耐震診断の結果、「倒壊又は大破壊のおそれがある」と判定された住宅を、「一応安全」と判定される程度に補強する耐震改修工事に対しては、申請により最大60万円(この場合、自己負担金の平均は110~120万円程度)の補助金が出ます(平成20年度まで実施予定)。詳しくは、徳島市役所建築課にお問い合わせください。

昭和56年6月以降の木造住宅・3階建て木造住宅

今までの地震の経験から、昭和56年6月以降の新耐震基準で建てられた木造住宅や構造計算が必要な3階建て木造住宅

は、比較的被害が少ないですが、心配な方は、建築物耐震相談所(相談無料)にご相談ください。

鉄骨造、鉄筋コンクリート造の建物

昭和56年6月以降の新耐震基準で建てられた鉄骨造や鉄筋コンクリート造の建築物は、一応安全となっていますが、耐震性については専門的になりますので、建築物耐震相談所(相談無料)や専門家にご相談ください。

●「建築物の耐震改修の促進に関する法律」では、多数の人が利用する、3階建て以上で1,000㎡以上の建物の所有者には、耐震診断、耐震改修の努力義務があります。これらの相談についても、建築物耐震相談所(相談無料)や専門家にご相談ください。

これから建物を建てられる方へ

建物を建てる時には、設計者に耐震性についてよく相談しましょう。特に2階建て以上(又は200㎡以上)の鉄骨造や鉄筋コンクリート造の建築物、3階建ての木造建築物は、構造計算書の作成が法律で定められていますので、専門家の方によく相談しましょう。

工事監理をしてもらおう!

図面どおりに施工が行われているかどうかを、確認することを工事監理と言います。無料で工事監理を行いますという建築会社もありますが、工事監理はそれなりの人件費がかかり、施工者が行う工事監理はどうしても甘くなりがちです。できれば、施工者にはっきりものいえる第三者の建築士と工事監理契約を結びましょう。

お問い合わせ先

- 徳島市役所4階建築課 TEL 621-5272・5275(直通)
- 建築物耐震相談所(相談無料:毎週水曜日午後1時~5時)建設センター5階 徳島県建築士事務所協会内(徳島市富田浜2-10) TEL 652-5862(直通)

耐震性を判断するポイント

一般的な日本の家屋(在来工法の木造住宅)の耐震性を判断するポイントは次のとおりです。

該当する項目がある場合は、耐震診断を受けることをお勧めします。

- (1) 建築時期 阪神・淡路大震災で倒壊・半壊した家屋は、昭和56年以前の古い耐震基準のものが大半を占めました。
- (2) 地盤 埋め立て地や造成地で盛り土をした場所、大雨で出水するような低湿地など、地盤が弱い場所は、地震のときの揺れが大きくなります。
- (3) 建物の基礎の構造 玉石の基礎や鉄筋の入っていない

コンクリートの基礎は、大きな地震で建物が倒壊したり、傾いたりする危険があります。

- (4) 壁の配置 壁が少ない建物や外壁が窓や扉だけになっている建物は、強度面のバランスが悪いため、横揺れに弱くなります。
- (5) 建物の形 建物の形が複雑になっていると、建物の一部に大きな力が集中して破壊につながる可能性があります。
- (6) 建物の維持管理 住宅の老朽化やシロアリ・腐食などにより、建物の強度は低下します。

前回、地震時の対応として、徳島市消防局発行の防災のてびきより「地震から身を守るための10カ条」や徳島県との「大規模災害時における民間賃貸住宅の媒介に関する協定書」に関する実施要領などを掲載しましたが、今回は、徳島市発行の地震・津波防災マップより、「地震に備えて今、できること」を一部抜粋し掲載しますので、参考にしてください。

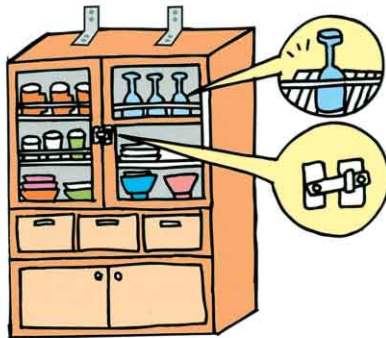
地震に備える② 一家の中でできること



転倒、落下を防ぐポイント

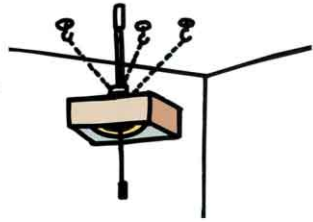
食器棚 食器の飛び出しを防止

L字金具などで固定し、棚板にはすべりにくい材質のシートやふきんなどを敷く。
 重い食器は下に、軽い食器は上の方に置く。扉が開かないように止め金具をつける。
 ガラスには、飛散防止フィルムをはる。



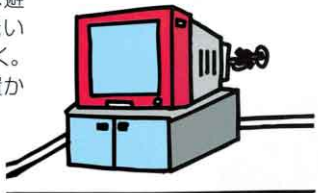
照明器具 鎖と金具を使って固定

鎖と金具を使って数箇所止める。蛍光灯は蛍光管の両端を耐熱テープで止めておく。



テレビ できるだけ低い位置で

家具の上などは避け、できるだけ低い位置に固定して置く。上に水槽などは置かない。



● 東南海・南海地震発生! その時あなたは?

- 震度5強から6強 (徳島市)
- 地震の揺れは 2分~5分

屋 内

家の中

- テーブルの下にもぐり、頭部を守る。(座ぶとんやクッションなども利用)。
- ガラス片が危険なため、素足で歩かない。
- 火の始末はすみやかに。



デパート・スーパー

- バッグなどで頭を保護。
- ショーウィンドウや売り場から離れ、壁際に。
- 係員の指示に従う。
- あわてて屋外に出ない。



ビル・オフィス

- 机や作業台の下にもぐる。
- ロッカーなど大型備品の転倒、OA機器の落下に注意。



マンション・アパート

- ドアや窓を開けて、避難口を確保。
- エレベーターは絶対使用しない。避難は階段で。



やけどに注意 地震で大きく揺れているときに、使用中のコンロに近づくのは危険。鍋などの落下によりやけどをする恐れがあります。揺れがおさまってから火を消しましょう。

屋 外

路 上

- かばんなどで頭を保護し、空き地や公園などに避難。
- ガラスや看板などの落下物に注意。
- 建物、ブロック塀、自動販売機などには近寄らない。



車を運転中

- ハンドルをしっかりと握り徐々にスピードを落とす。
- 道路の左側に車を寄せ、エンジンを停止させる。
- 避難するときは、キーはつけたままに。
- 車検証や貴重品は携帯する。


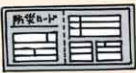






電車やバスなどの車内

- つり革、手すりに両手でしっかりとつかまる。
- 勝手に車外へ飛び出さず、係員の指示に従う。



● 避難の心得10か条

<p>1 避難する前に、もう一度火元を確かめ、ブレーカーやガスボンベの元栓を確認・切る。</p>	<p>6 避難は徒歩で。車やオートバイは原則として禁止。</p> 
<p>2 各自が防災カード(住所、氏名、生年月日、血液型、連絡先など記載)を身につける。</p> 	<p>7 お年寄りや子どもの手はしっかり握って。</p> 
<p>3 ヘルメットや防災ずきんなどで頭を保護。</p> 	<p>8 町内や近所の人たちと集団で、まず決められた避難所に。</p>
<p>4 荷物は必要最小限のものに。</p> 	<p>9 狭い道、塀ぎわ、川べりなどは通らないで避難。</p>
<p>5 外出中の家族には連絡メモで所在を明確に。</p> 	<p>10 協力しあって救出、救護。</p>

避難するときのルール

避難するときは混雑防止のため、決められたルールと秩序を守り、お互いに協力し合うことが大切。特に乳幼児・お年寄り・病人・身体の不自由な人を安全に避難させるために、日頃から十分な話し合いをしておきましょう。



避難に車は使用しない

災害時に車で避難すると、かえって避難が遅れます。また、避難所やその周辺が車で混雑し、救助活動もできなくなってしまいます。自分達の都合だけ考えた車での避難は絶対にやめましょう。

● みんなで考える、避難所や避難方法。

家族が離れ離れになったときの連絡方法を決めておく。

- 自宅から離れた親戚などを中心とする電話による連絡方法を考える。
- 避難するときは玄関などに行き先を書いたメモを残す。



避難時の家族の役割分担は明確にしておく。

- 非常持出品チェック係、赤ちゃん係、おばあちゃん係、連絡係など。



避難所や避難経路の確認をしておく。

- 散歩を兼ねて、事前に下見をしておき安全な避難経路を確認。



デマに惑わされないための正しい災害情報を入手する。

- 正確な情報を得るためにラジオは必需品。非常持出品の中にラジオや乾電池を常備しておく。



徳島市発行「東南海、南海地震に備えて 徳島市地震・津波防災マップ」より抜粋